



平成29年度公募について (予告)



国立研究開発法人科学技術振興機構 環境エネルギー研究開発推進部 原子力研究グループ

文部科学省では、東電福島第一原子力発電所(1F)の廃炉の加速に資するため、「英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業」において、様々な分野の研究が融合・連携し、幅広い知見を集めて研究開発を推進する「廃炉加速化研究プログラム」を実施しています。その中で、日仏原子力共同研究は、文部科学省、および事業実施支援業務受託機関である国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が、フランス国立研究機構(ANR)と連携して募集を行う研究プログラムです。

平成29年度の日仏原子力共同研究の募集を
平成28年9月から行うことを予定しております。

公募についての案内は、今後、公式サイトに掲載します。

JST 原子力募集ページ : <http://www.jst.go.jp/nuclear/application/index.html>

概要

応募は2段階ありますのでご注意ください。登録が確認された提案が本申請対象となります。

応募登録締切: 平成28年10月頃

本申請締切: 平成29年1月頃

日本とフランスの2カ国で作られた研究チームによる課題の提案であることが必須です。

日本側: 本プログラムに応募すること。1Fの廃炉の加速化に資する提案であることが必要です

参考 昨年度募集サイト:

http://www.jst.go.jp/nuclear/application/h27_sen4.html;

フランス側: ANRの国際共同研究PRCIに応募すること。1Fの廃炉に限らず、一般技術を対象とします。

参考 昨年度募集サイト:

<http://www.agence-nationale-recherche.fr/en/projects-and-results/archive-of-calls-for-proposals/aap-en/generic-call-for-proposals-2016-2016/nc/>

【テーマ】過酷環境下での作業のための基礎基盤技術に関する共同研究

Joint research on basic and fundamental technologies for operation under extreme severe environment such as robotics including cobotics; remote operation; localization and mapping; image processing; observation system; sensor and materials.

東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所(1F)の廃炉の加速に資するため、過酷環境(高線量、多湿、高温、低照度等)下での作業に必要な基礎・基盤技術に関わる研究について、仏国との協力により推進する。なお、仏国側は原子力との関係の有無にかかわらず基礎基盤技術としての研究成果に興味がある。よって用途が広い基礎基盤となる技術を共同研究し、日本側では更に1F廃炉に資する研究開発を歓迎する。高線量環境などの過酷環境に伴う困難さが想定される燃料デブリ取り出し作業に向けて、燃料デブリの物性、性状、分布状態の把握や高線量環境に対応する方策検討等に資する研究が求められる。具体的には、ロボット技術(コボティクス含む)、画像処理、遠隔測定システム、耐放射線材料、新しいセンサ等の技術に関して、課題の速やかな解決に資する基礎的・基盤的研究を実施する。

実施経費、募集件数等は、現在検討中です。参考までに、平成28年度募集時の実施経費等は以下の通りです。

研究期間 最大 3年

実施経費 1課題当たり 最大 2000万円/年 3年間で6000万円(日本側チーム)

採択予定件数 2課題程度

注意)本案内の内容は、今後変更の可能性がございます。